



川越市立霞ヶ関東小学校だより

たいよう

第2号 令和6年4月26日(金)

学校教育目標

- 【た】 たくましい子
- 【い】 生き生きと活動する子
- 【よ】 よく考える子
- 【う】 美しい心の子

校歌「太陽の子」

校長 関根 努

校庭には、赤や白のハナミズキが咲き、新緑が日増しに鮮やかになってきました。今年度が始まり、約1か月が経とうとしています。先日の4月23日(火)に体育館で1年生を迎える会を行いました。各学年の心を込めたメッセージや2年生から朝顔の種のプレゼントがあり、心温まる会になりました。ありがとうございました。特に、5・6年生の運営委員会の児童は、児童会を引き継いだばかりにもかかわらず、力を合わせて計画・準備をしてくれました。当日も司会や挨拶などしっかりと言うことができ、すばらしいと思いました。今後の児童の活躍がとても楽しみです。

4月は、始業式、音楽朝会、1年生を迎える会と「校歌」を歌う機会が多くありました。1年生の教室からも元気な校歌の歌声が響いてきています。「おさし みよし野 弥生から～」と歴史を感じさせる歌詞です。放送室の近くや図書室の廊下に校歌の歌詞や学校の歴史について掲示されているので、読んでみました。

校歌「太陽の子」について
私は、三番までの校歌形式ではなく、現代にふさわしい活気にみちた内容を盛ろうと考えました。タイトルを「太陽の子」とし、同じ旋律を三回くりかえすのではなく、二回とコーダにして、新しい言葉を生かすようにしました。詩の心は、歴史と風土を自覚しながら、未来に向けて翔ぼうと、声をかけあう「友情」を基調にして書かれています。大中恩先生の手で、新鮮な感動を伝えて心が洗われる、すばらしい曲がうまれました。



校歌 太陽の子

関根 栄一 作詞
大中 恩 作曲

おさし みよし野 弥生から
ゆたかな大地 ここにいま
ひびけ うたごえ 東小
秩父の青に 鏡の旗を
たかくかかげて すすもうよ

つばさ そろえて 初雁は
はげましとぶよ ひろい空
強く はばたけ 東小
ひたいのあせがひかるよ玉と
みのる知識の よろこびに

うたは みどりの風をよび
ゆめは あしたの虹をみる
川越 霞 東小
太陽の子 われら
太陽の子 われら
太陽の子 われら



この校歌は、埼玉県生まれの作詞家・童話作家である関根栄一（せきね えいいち）さんと「いぬのおまわりさん」「サッチャン」などで有名な作曲家である大中恩（おおなか めぐみ）さんで昭和52年3月15日に制定されました。霞ヶ関の歴史と風土を生かした素敵な歌詞で、子供たちが元気にのびやかに歌える旋律になっています。

校歌は、卒業してもずっと覚えている人が多く、思い出とともに心に残るものです。今年度は周年行事もありますので、式典等では全員で校歌を歌い、50年という歴史を感じたいと思います。

ホームページ掲載用のため、個人名等は削除しております